

## 26日 火曜

### Ⅱ コリント



10:12 私たちは、自己推薦をしているような人たちの中のだれかと自分を同列に置いたり、比較したりしようなどとは思いません。しかし、彼らが自分たちの間で自分を量ったり、比較したりしているのは、知恵のないことなのです。

10:13 私たちは、限度を越えて誇りはしません。私たちがあなたがたのところまで行くのも、神が私たちに量って割り当ててくださった限度内で行くのです。

10:14 私たちは、あなたがたのところまでは行かないのに無理に手を伸ばしているものではありません。事実、私たちは、キリストの福音を携えてあなたがたのところまで行ったのです。

10:15 私たちは、自分の限度を越えてほかの人の働きを誇ることはしません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたによって、私たちの領域内で私たちの働きが広げられることを望んでいます。

10:16 それは、私たちがあなたがたの向こうの地域にまで福音を宣べ伝えるためであって、決して他の人の領域でなされた働きを誇るためではないのです。

10:17 誇る者は、主にあって誇りなさい。

10:18 自分で自分を推薦する人でなく、主に推薦される人こそ、受け入れられる人です。

コリント教会の問題の一つに、敵対者が近づいて来て信徒を奪うということがありました。次章にパウロがいうように「ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音をうけ

たり」ということがあったのです。彼らは教師として近づいて来て、自分が優れた賜物と実績を持っていると宣伝し、弱い信仰のクリスチャンを惹きつけて、パウロの指導のもとから離して自分のものとしたのです。

その際に彼らがしたことは「自己推薦」です。パウロは彼らに対抗するために、さらに説得力のある「自己推薦」もできましたが、それは彼らと「同列に」自分を置いていることになると考え、それをしませんでした。コリント教会のクリスチャンにして欲しいことは、敵対者とパウロとを比べるのではなく、神の「限度」「割り当て」を知ることであり、「私たちの領域内で」働きが広がり、さらには「向こうの地域にまで福音を宣べ伝える」ということです。

自分を「誇る」または「自己推薦」するところからは、何ら良い実は生まれません。「主に推薦される」とありますから、自分への評価や評判は主に全く委ねて主のなしてくださるわざを待ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

